



キャリア教育とは

「キャリア教育」というと、子ども達に将来の夢をもたせることや職場体験のイメージでとらえられがちです。しかし、いま学校現場で取り組んでいるキャリア教育では「いかに生きるか」を考えさせ、それを実現するために必要な力を育てることを目指しています。

(徳島県の目指すキャリア教育)

夢や希望に向かってチャレンジし、社会の一員として、ともに支え合い、ふるさと徳島に愛着と誇りを持つ人を育むとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力・態度を培うことを通して、キャリア発達を促す教育

令和2年4月から徳島市キャリア・パスポートを作成しております。キャリア・パスポートとは、子どもたちが、小学校から高等学校までの12年間における自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう学習過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積していくものです。

年度末には、1年間の学習や生活について振り返り自己評価を記入し、キャリア・パスポートに蓄積して次学年へ引き継いでいます。振り返りの内容は、「この一年どのくらいできたか○をつけよう」というような項目に丸をつけるものや、次学年で頑張りたいことを記述しています。キャリア・パスポートを活用して、今後の学習や生活への意欲につなげる活動を行っています。

～小学校における外国語教育～



小学校における外国語教育は3年生から始まり、3・4年生では「外国語活動」、5・6年生では教科「外国語科」として設定されています。3・4年生の「外国語活動」では、「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通して、また5・6年生の「外国語科」では、「聞くこと」「話すこと」を中心にしながら、「読むこと」「書くこと」の活動も行い、コミュニケーションの力を身に付けていきます。教師から知識を一方的に教え、それを覚えていくといった内容の授業ではなく、子どもたちが「聞きたい」「言いたい」という目的や場面などを設定して、子どもたちの本当の気持ちを伝え合ったり、発表したりすることを大切にした授業を進めています。例えば、5年生においては、イギリスから日本にやってくるALTのお母さんに、事前に徳島のおすすめの観光地を伝えるという活動をしました。児童は、自分たちが住んでいる徳島のすてきなところをわかってもらうために、タブレットを使い、観光ガイドを作成しました。

ところで、外国語教育はなぜ必要なのでしょう？「どうして英語を勉強しないといけないの？」と思っている子どもたちもいるかもしれません。よく英語は世界の共通言語といわれますが、その意味は計り知れません。英語を話せると、英語圏だけではなく、世界中の人と話せるようになるのです。今の子どもたちが大人になるころには、世界との距離はさらに近くなるでしょう。職種に関係なく英語でのやり取りが日常的に求められたり、英語で発信される情報をそのまま読んだりする機会があるかもしれません。何よりも、英語が話せると世界中を旅したり、世界中に友達を作ったり、そこから視野が広がったりします。小学校のうちに英語に対する「好き」や「楽しい」といった子どもたちの前向きな気持ちを醸成し、その後も続いていく外国語教育のよいスタートを切ることができればと願っています。

